

[日本国際文化学会設立20周年記念特集]

平野健一郎賞 受賞者に聞く

[第一部]

受賞者は今

| | |
|--|-----|
| intercultural / 跨文化 / 国際文化 ● 稲木徹 | 004 |
| サステナビリティを生存の場から紡ぎなおすために ● 鳴原敦子 | 009 |
| 東アジアにおける人の移動と言語 ● 趙貴花 | 014 |
| 国際文化学を生きるために ● 山脇千賀子 | 019 |
| 「触変」の条件 ● 土屋明広 | 024 |
| 〈ひと〉の視点と国際文化学 ● 川村陶子 | 029 |
| 文化の境界を問う——言語実践としての翻訳から考える国際文化学 ● 坪井睦子 | 034 |
| 草の根の国際関係論を論じる場としての国際文化学 ● 大和裕美子 | 038 |
| 人の行動に立ち返って、文化的ダイナミクスを創出する ● 齊藤理 | 042 |
| 石巻で考える「危機」と「希望」と「国際文化」 ● 目黒志帆美 | 047 |
| 「専門は国際文化学」と言うために ● 高橋梓 | 052 |
| 私にとっての国際文化学——痛みを抱える個人の尊厳と向き合える 学問のために ● 桐谷多恵子 | 056 |

[第二部]

座談会「私の国際文化学」

- [出席者] 稲木徹 / 鳴原敦子 / 趙貴花 / 土屋明広 / 川村陶子
/ 大和裕美子 / 目黒志帆美 / 高橋梓 / 桐谷多恵子
- [司会] 小林文生

1940年〈東京オリンピック〉返上と日中米IOC委員のオリンピズム

——王正廷とエイブリー・ブランデーを中心に—— ● 菅野敦志

ポスト・スハルト体制期のインドネシア映画における家族主義

● 西芳実

芝崎厚土著『国際文化交流と近現代日本——グローバル文化交流研究のために』

● 井上浩子

【会員の著書紹介】

- * 奥田孝晴『国際学の道標——地球市民学への道を拓く』
- * 奥田孝晴『Higashi Asia Kyodotai Eno Michi』
- * 鈴木隆泰『如来出現と衆生利益——『大法鼓経』研究』
- * 目黒志帆美『フラのハワイ王国史——王権と先住民文化の比較検証を通じた19世紀ハワイ史像』
- * 森島豊『抵抗権と人権の思想史——欧米型と天皇型の攻防』

【博士論文紹介】

- 『ジャーナリスト、ミレナ・イエセンスカの仕事——1920年代のモード記者としての活動を中心に』 ● 半田幸子
- 『朝鮮人学校存廃問題の歴史過程——1945-1957 グローバル・ヒストリーの視点から』 ● 崔紗華

【国際文化学 私の3冊】

- 国際文化学 2020 への示唆 ● 岡真理子

| | |
|-----------------------------|-----|
| 英文目次 | 152 |
| ABSTRACT | 153 |
| 編集後記 | 155 |
| 日本国際文化学会2020年度事業報告 | 156 |
| 日本国際文化学会第19回全国大会（書面開催）プログラム | 157 |
| 日本国際文化学会第20回全国大会開催予告 | 160 |
| 第10回平野健一郎賞受賞者 | 162 |
| 全国大会発表要項について | 163 |
| 2020～2021年度役員及び各種委員一覧 | 166 |
| 日本国際文化学会規約 | 169 |
| 『インターカルチュラル：日本国際文化学会年報』編集要項 | 171 |
| 『インターカルチュラル：日本国際文化学会年報』投稿規程 | 173 |
| 平野健一郎賞規程 | 175 |